

平成 17 年度 カラス対策調査結果について

1. 調査目的

城址公園周辺は、市内中心にある数少ない樹林中、貴重な市民の憩いの場であることから、カラス対策が重要な課題である。このため、「カラスの生息数調査」、「捕獲以外の手法によるカラスの生息数を減少させるための実験とその効果の検証」を行い、今後のカラス対策の基礎資料とするものである。

2. 生息調査結果

(1) 城址公園周辺の生息数

調査の結果、ねぐらとして「調査範囲」に集まってくるカラスの数は、1月は約6,000羽、2月は約5,500羽であり、城址公園周辺地域は大規模ねぐらとして利用されていた。

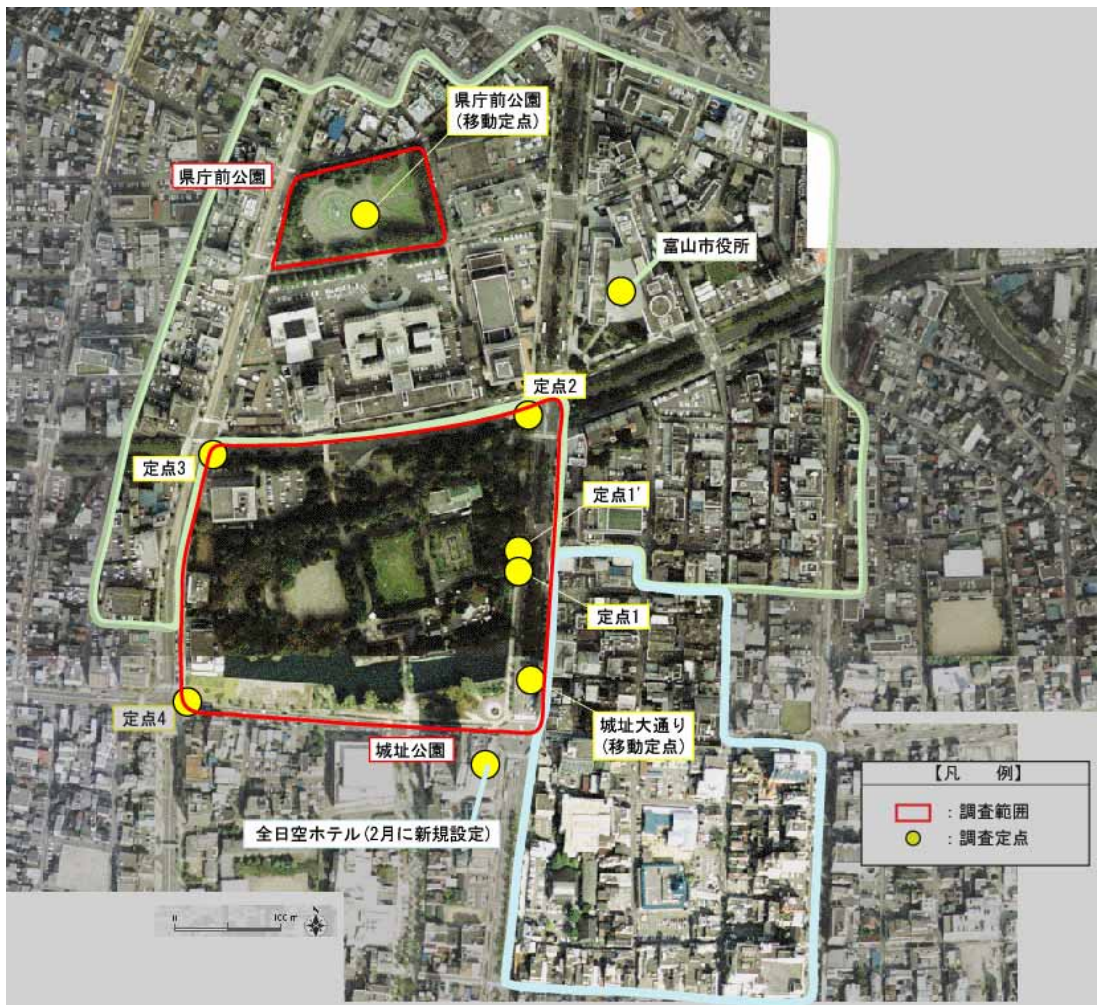


図1 調査範囲および調査定点

表1 城址公園周辺のカラス生息数調査結果 (単位:羽)

	1月19日	2月27日
	「ねぐら」入 17時30分時点	「ねぐら」入 18時時点
城址公園	1,891	3,017
県庁前公園	582	420
周辺ビル屋上	2,500*	1,614
踏査による確認**	1,000*	415
合計	5,973*	5,466

*：推測の数を含む。

**：城址大通りなど路上の街路樹、電線にとまる数。

(2) カラスの飛行ルート調査

護国神社、神通川、稲荷公園、東中野公園、呉羽山、常願寺川でねぐらの有無調査をしたが、市内中心部では城址公園周辺以外にねぐらとなっている箇所は確認できなかった。

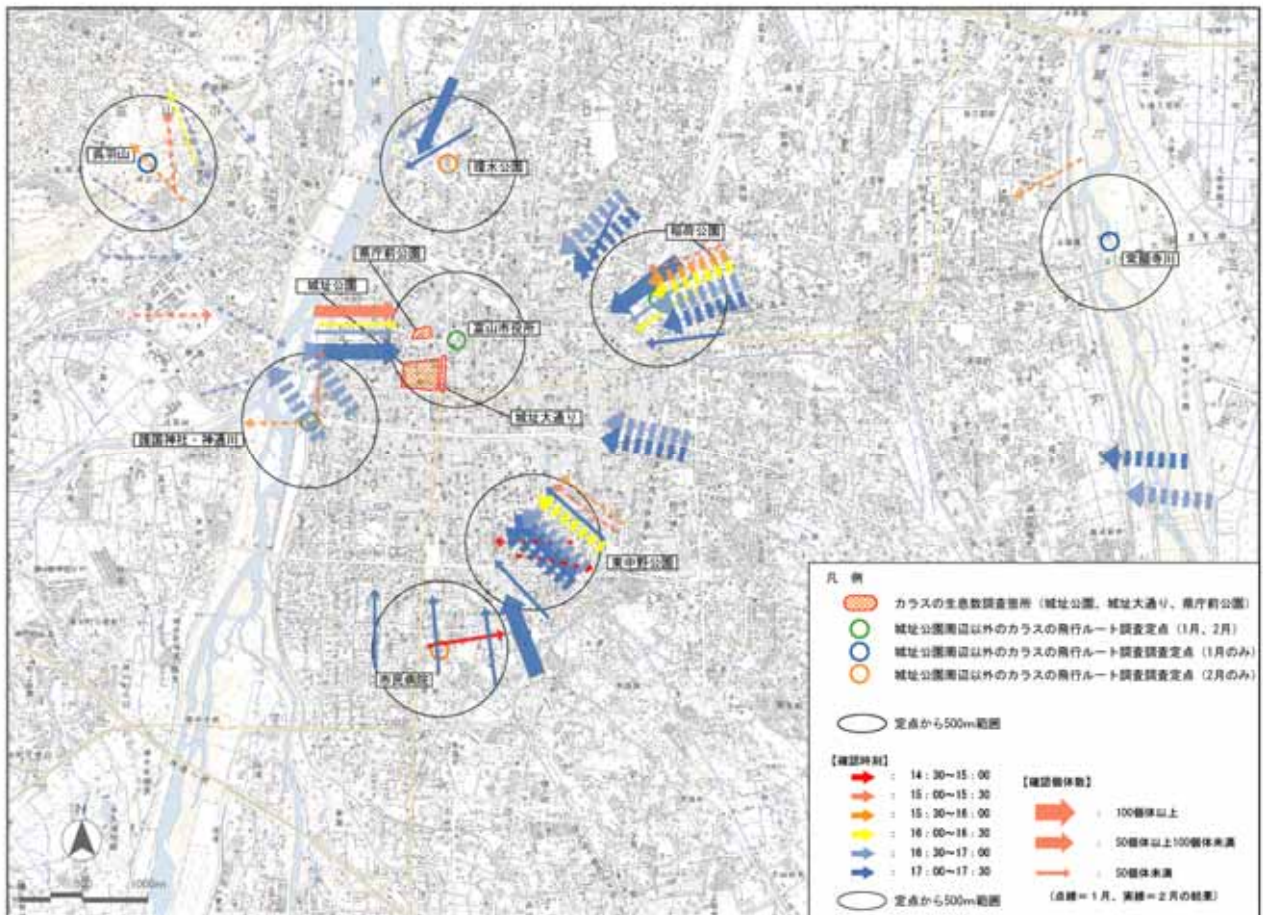


図2 飛行ルート調査結果

3. 捕獲以外の手法による対策の検討・実験と効果の把握

(1) 実験結果・評価

実験結果の評価は以下のとおりである。

表2 実験結果の評価

場所	利用特性	：効果が期待できる		：効果を得るには課題が多い
		ライトアップ	防鳥糸	アラームコール
城址公園	ねぐらとして利用			
建物屋上	ねぐら入前の集合場所			

備考

ライトアップ

点灯したままだと、慣れやすいがセンサーなどで不規則な点滅をさせることで効果があると考えられる。懐中電灯などで照らすと追い出し効果が見られた。

防鳥糸

物理的に止まれなくなるため、効果の持続性が高く、慣れにくい。

アラームコール

短期的な効果は見られるが、長期になれば慣れによる効果の低減が考えられる。人が装置を扱っている場面を見られると、効果が無くなるとの報告もある。

城址公園

- ◆ ねぐらとして利用されている城址公園で、不規則なライトアップや比較的大きな音量でのアラームコールを流すことは可能であり、効果が期待できる。
- ◆ 防鳥糸は、公園の樹木に設置することは困難であり、カラス以外の野鳥にも影響があると考えられる。
- ◆ 樹木の強剪定は、ライトアップ効果の増強、ねぐらとなりにくくするなどの効果が期待できる。

建物屋上

- ◆ 建物屋上は、ねぐら入り前の集合場所として利用されている。防鳥糸の設置が、実験でも最も効果が見られ、かつ慣れも生じにくいと考えられることから、建物屋上での対策として適していると考えられる。その際は、特定の建物だけでなく、城址公園周辺で広範囲に同時に対策を行う必要がある。

4. 今後の具体的なカラス対策の流れ

